



岡山から世界に通用する 作品を創りたい

輝いている人

優れた文化活動を行った人を表彰する岡山芸術文化賞のグランプリに選ばれたのが、陶芸家であり岡山県立大学の講師を務める作元朋子さんだ。

平成23年6月には、若手の登竜門として知られるイタリアのフェアエンツァ国際陶芸展で最高位と同格のチエルサイエ賞を受賞。独自の技法による美しい「しま模様」が高い評価を得た。「今までで一番大きな賞。うれしかった」と話す。

作元さんの作品にはしま模様が多い。「時代を超えて愛される模様だから」と、自身も好きな模様だという。そのしま模様をきれいにし出すため試行錯誤し、独自の製法を考案。色を練りこんだ粘土を型取りし、パーツを組み立てて焼く製法だ。「1作品に3か月かかる。私しかやらない面倒な

作り方」と話す。美しい模様と曲面が特徴的な作品へのこだわりがうかがえる。「焼いた後に思っていたものとは違ったものが出るので、焼いた後にもっといいものができるのがおもしろい」と、陶芸の道を志したのは大学3年生。始めは皿や花瓶などの実用品を作っていた。「機能性を考えるより、模様と形にこだわって楽しく創りたい」という思いが高まりオブジェの制作へ。

岡山県立大学デザイン学部造形デザイン学科の講師も勤める。「学生と接することは刺激になる」と言う。「作家の活動も教える仕事も両方続けたい」とも。

「100%満足した作品はない。でもそれが次の制作への意欲になる」と。さらなる活躍が期待されるなか、「岡山から世界に通用する作品を創りたい」と力を込める。

作元 朋子さん(岡山県立大学講師)

岡山芸術文化賞のグランプリを受賞した

さあ、はじめよう!

感謝の気持ち

朝起きて顔を洗う水道の水をあなたは自分で作りますか。食べ物やその材料をあなたは自分で作りますか。勉強に使う鉛筆や消しゴムをあなたは自分で作りますか。学校に持っていかばんをあなたは自分で作りますか。

あなたが毎日生活する中で、どれだけの人たちにささえられ、お世話になってきたのでしょうか。この広い世の中であなたをささえてくれる人たちがいる。

きっとあなたを大切に思い、あなたのすこやかな毎日を願っている。そう思うと、感しゃの気持ちでいっぱい。感しゃの気持ちを忘れないでいたい。忘れないだけでなく、「ありがとう」ということばで相手に伝えたい。

「ありがとう」は、次の「ありがとう」をつれてくる。「ありがとう」を忘れずに言い合おうと、人と人との間にささえ合いや助け合いが広がっていく。たくさんの人たちが暮らすこの世の中を成り立たせているのは、「ありがとう」かもしれませんね。

問い合わせ 学校教育課 (☎92-8358)



推進啓発ポスター



昔遊びを教えてもらう授業「昔遊びの会」で、登下校の見守りをしているボランティア団体「めだかの学校」の人や児童のおじいさん、あばあさんからあやとりのコツを教えてもらう清音小学校の1年生。一つの遊びを教わるごとに「ありがとうございました」と、元気に感謝の気持ちを伝えていました

季節の絵本!

『ひなまつりルンルンおんなのこの日』
ますだゆうこ・作 たちもとみちこ・絵
文彦堂



今月のテーマ 「ひなまつり」

現在のひなまつりは、子どものすこやかな成長と幸せを願うとても大切な行事です。

ゆずちゃんに飾られたおひなさま。ゆずちゃんがお出かけしてしまうと、あれっ人形たちが動き出しました。どこに行くのかな?

ひなまつりの由来や、飾りつけ、親子で作るお料理など、ひなまつりを楽しめる1冊です。

子育て王国そじゃ